

社会科学学習指導案（歴史的分野）

日 時 平成25年5月24日（金） 第1校時

対 象 1年4組（男子20名 女子20名 計40名）

指導者 教 諭 恒 見 順 子

1 単 元 「文明のおこりと日本の成り立ち」

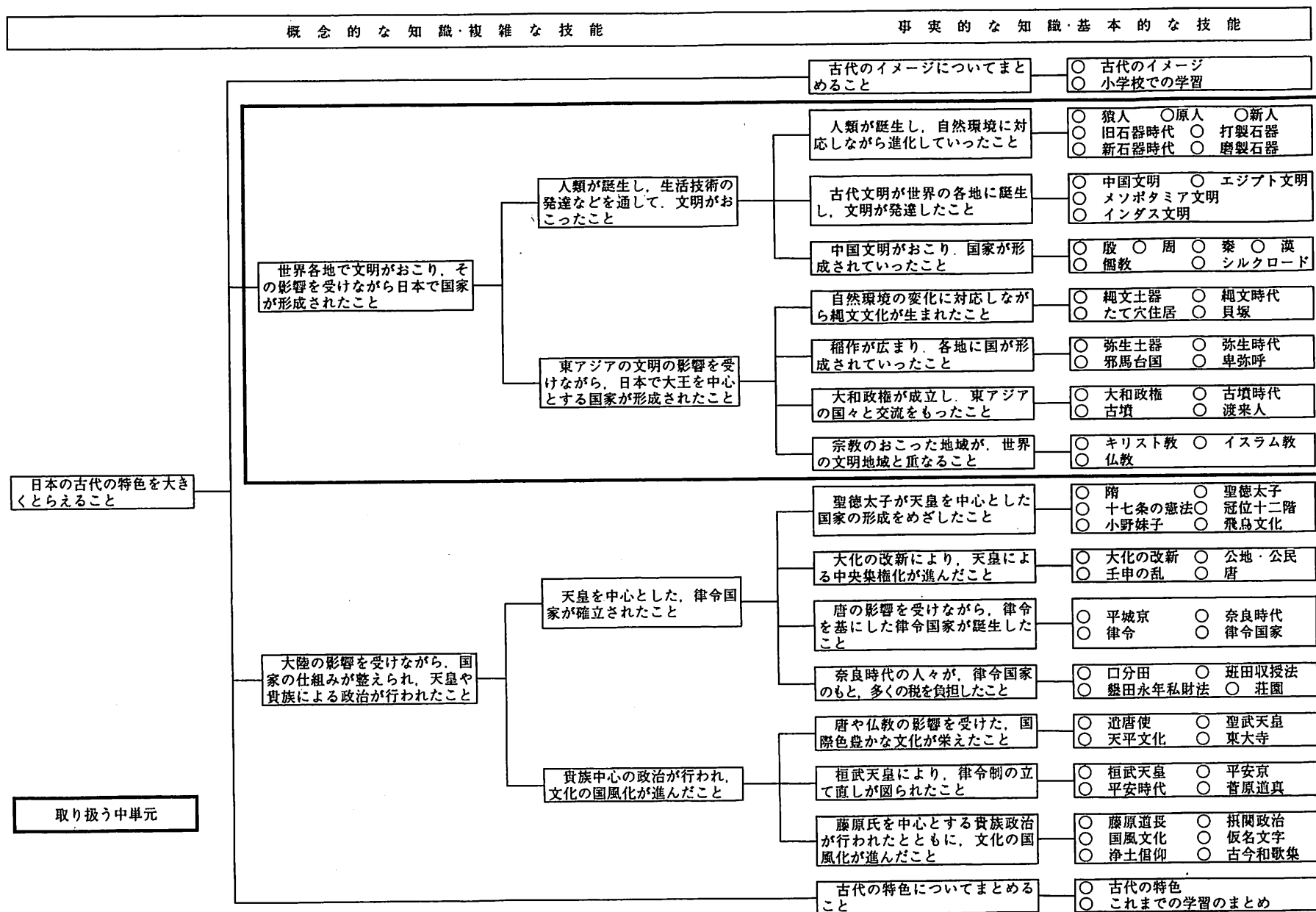
2 単元の考察

本単元は、人類の誕生や世界の古代文明、宗教のおこりなど世界の動きと関連付けながら、日本における国家の形成について学習する。人類の出現の後、世界各地で農耕や牧畜を基盤に築かれた諸文明には、生活技術の発達、文字の使用、国家のおこりと発展など、共通する特色が見られる。そして、日本列島では農耕の広まりによる生活の変化の後、金属器の使用、漢字の伝来、古墳の広まりなど、中国の文明の影響を受けながら国家が形成されていった。その過程で、大陸から移住してきた人々が日本の社会に果たした役割は大きい。これらを学習することは、日本と諸外国の歴史や文化のかかわり、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う上でも大きな意義がある。

生徒は、小学校において、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に歴史を学習している。日本の歴史については、狩猟・採集や農耕の生活の後、大和政権による国土の統一が行われたことなどを単に呼称や古墳についての学習を通して学んでいる。アンケート結果によれば、歴史的分野を学習することは大切だと思うと全員が答えた。その中で生徒は、「これから先、わたしたちが世界をつくっていく上で、歴史は参考になるから」、「歴史があって、今の自分たちが存在するから、その歴史を知るべきだと思うから」などと述べていた。しかし、古代については、「それほど昔のことを知っても意味がない」、「歴史上の有名な人物が少ない」、「正確なことが分からない」などと答えた生徒が29名（73%）いた。これらのことから、歴史的分野について関心は高いが、古代を学習する意義を見出せていない生徒が多いことが分かった。

指導に当たっては、人類が出現し、世界の古代文明や宗教がおこった世界の動きと、日本における国家の形成の過程を関連付けて理解させる。その際、縄文時代における狩猟・採集、弥生時代における農耕・牧畜といった人々の生活や、古墳時代における渡来人が日本に伝えた文化などに着目させ、生徒自身を取り巻く社会と学習内容とのつながりに気付かせたい。また、トゥールミン・モデルを用いて、考古学などの成果による様々な資料を基に、古代の特色について考察させ、表現させる。自己の主張と他者の主張を比較させたり、自己の主張を俯瞰的に見つめ直させたりすることで、古代の特色を大観させたい。これらの活動を通して、旧石器時代から新石器時代、縄文時代から弥生時代といった社会の変遷の過程における社会的事象を多面的・多角的に考察し、主体的に社会に参画する上で必要な創造的に考える力や態度をはぐくんでいくことにした。

3 単元の学習内容の構造化



取り扱う中単元

4 単元の目標

- (1) 人類の出現と古代文明の誕生、日本における国家の形成の過程について関心を高めさせ、意欲的に追究させる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 仏教、キリスト教、イスラム教の分布図から古代文明とのつながりについて多面的・多角的に考察させ、自分の言葉で表現させる。(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 適切に選択した資料を基に、古代の人々の生活について読み取らせ、ワークシートにまとめさせる。(資料活用の技能)
- (4) 日本で国家が形成された過程や大陸から移住してきた人々が日本に与えた影響について関連付けて理解させ、その知識を身に付けさせる。(社会的事象についての知識・理解)

5 単元の指導計画と評価の重点 (全7時間) — 評価 (授業中) — 評価 (授業後)

主な評価場面と学習内容 (基本的な知識・単純な技能)	時間	評価 規 準				主な言語活動の 具体的場面
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
人類の出現と文明のおこり 人類の進化の過程と特徴について理解する場面 ☐ 猿人 ☐ 原人 ☐ 新人 ☐ 旧石器時代 ☐ 打製石器 ☐ 新石器時代 ☐ 磨製石器	1			人類の誕生と進化の様子を、様々な資料から読み取ったり、図表などにまとめている。 【ノート】	使用されていた石器などの道具から、人類の生活の変化を理解し、その知識を身に付けている。 【ノート】	《読み取り》 人類の誕生と進化の図から、その特徴について読み取る場面
文明の誕生と発展 古代文明の特色や人々の営みについて理解する場面 ☐ エジプト文明 ☐ インダス文明 ☐ メソポタミア文明 ☐ 中国文明	1	古代文明の誕生と発展について関心を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。 【観察】	古代文明が誕生した背景や要因について考察し、適切に表現している。 【ノート】			《解釈》 世界各地に発生した古代文明の地図や資料から、国の誕生について解釈する場面
中国文明と国家のおこり 中国の国家が形成されていく過程について表現する場面 ☐ 殷 ☐ 周 ☐ 秦 ☐ 漢 ☐ 儒教 ☐ シルクロード	1	秦や漢の国づくりの特色や遺跡等に対する関心を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。 【観察】		秦や漢の国づくりの特色を、様々な資料から読み取ったり、図表などにまとめている。 【ノート】		《読み取り》 秦や漢に関する資料から、中国における国家の形成の過程について読み取る場面
日本列島の誕生と縄文文化 縄文時代の遺物から、その特色を考察する場面 ☐ 縄文土器 ☐ 縄文時代 ☐ たて穴住居 ☐ 貝塚	本時		縄文時代の遺物から、縄文時代の特色を考察し、適切に表現している。 【ワークシート】	縄文時代の人々の生活の様子を様々な資料から読み取ったり、図表などにまとめている。 【ワークシート】		《説明》 縄文時代の遺物等から、当時の人々の生活の様子について説明する場面
弥生文化と邪馬台国 中国の歴史書から日本と東アジアの交流を考察する場面 ☐ 弥生土器 ☐ 弥生時代 ☐ 邪馬台国 ☐ 卑弥呼	1		弥生時代の遺物等を分析し、社会の変化について考察し、適切に表現している。 【ノート】		日本に小さな国々が誕生する過程を理解し、その知識を身に付けている。 【ノート】	《説明》 弥生時代の遺物等を分析し、社会の変化について説明する場面
大王の時代 日本の国家が形成されていく過程について理解する場面 ☐ 大和政権 ☐ 古墳時代 ☐ 古墳 ☐ 渡来人	1			国家形成の過程について、古墳時代の遺物などから読み取り、図表などにまとめている。 【ノート】	大陸から移住してきた人々が日本の社会に与えた影響を理解し、その知識を身に付けている。 【ノート】	《読み取り》 中国の歴史書や古墳時代の遺物から、日本の国家形成の過程について読み取る場面
宗教のおこり キリスト教やイスラム教、仏教の特色を歴史や文化遺産と関連付けて理解する場面 ☐ キリスト教 ☐ イスラム教 ☐ 仏教	1		キリスト教やイスラム教、仏教がヨーロッパやアジアなどに与えた影響を考察し、適切に表現している。 【ノート】		仏教やキリスト教、イスラム教のおこりを理解し、その知識を身に付けている。 【ノート】	《読み取り》 キリスト教やイスラム教、仏教の誕生やその後の世界に与えた影響について、地図や資料から読み取る場面
全7時間における各評価観点の配当時数		②	3+①	4	④	○数字は、授業後に行う評価の回数を表す。

6 本時の実際（4／7）

(1) 主 題 「日本列島の誕生と縄文文化」

(2) 本時の目標

ア 縄文時代の遺物等から、当時の自然環境など人々の生活の様子を関連付けて、縄文時代の特色を考察させ、適切に表現させる。（社会的な思考・判断・表現）

イ 縄文時代の人々の生活の様子を、実物資料や写真などから読み取らせ、図表などにまとめさせる。（資料活用の技能）

(3) 主題の考察

本単元を学習するに当たり、人類の誕生や世界の古代文明の形成の過程の中で、人々の生活が狩猟・採集から農耕・牧畜へと変化していったことを学習してきた。日本列島には、旧石器時代に人類が移り住んだとされる。やがて氷河時代が終わり、温暖で豊かな自然環境の中で、縄文時代の人々は、打製石器や磨製石器、縄文土器などを用いて狩猟・採集中心の生活を営んだ。このことは、世界史における旧石器時代から新石器時代への変遷と必ずしも一致しない、縄文時代の特色である。また、自然崇拜などに基づく信仰が当時の人々の中に生きていたことや、自然環境の変化に適応しながら人々が生活していたことが、考古学などの成果により明らかになっている。

生徒は、小学校において、貝塚や集落などの遺跡、土器などの遺物を取り上げて調べ、縄文時代の人々が狩猟や採集の生活を営んでいたことを学習している。アンケート結果によれば、縄文時代の人々の生活について、「狩りや漁、木の実などの採集をして生活していた」と答えた生徒が34名（85%）、「たて穴住居に住んでいた」と答えた生徒が17名（43%）、「厚くてもろい縄文土器を使っていた」と答えた生徒が16名（40%）と、ほとんどの生徒が、縄文時代の人々の生活について、具体的な遺物名や用語を用いて説明することができた。しかし、縄文時代の期間について、正しく答えられた生徒は6名（15%）に留まった。これらのことから、縄文時代の人々の生活について、基本的な知識はもっているが、縄文時代が1万年以上も長きにわたる時代であることを認識している生徒は少ないことが分かった。また、「縄文時代の人々は、なぜ狩猟・採集の生活を営んだのか」、

「縄文時代の人々は、自然環境にどのように適応していったのか」など、当時の人々の生活の背景を自然環境の変化などと関連付けて考察できた生徒はいなかった。

そこで、指導に当たっては、縄文時代の人々の生活について、より広い視野でとらえ直させたい。そのためにまず、縄文時代の遺物等を基に、当時の人々の生活について読み取らせる。生徒に既習の知を用いさせながら、縄文時代の人々の生活がどのようなものであったのか、価値分析・意思決定を行わせる。そして、上野原遺跡に代表される県内で発掘された遺物や当時の自然環境を示す資料など用いて、視点の転換を図らせる。これらの資料から、南九州独自の縄文文化の特色や、当時の人々が桜島や鬼界カルデラの噴火など自然環境の変化に適応しながら生きていた過程を考察させる。その際、県内で発掘された遺物を用いることで、学習内容と生徒を取り巻く社会とのつながりに気付かせながら、縄文時代の人々の生活の様子について自己の主張を表現させたい。これらの活動を通して、広い視野に立って多面的・多角的に社会的事象を考察させ、主体的に社会の形成に参画するために必要な創造的に考える力や態度を養っていくことができると考えた。

(4) 研究に関する指導の工夫

【教科論 6-(1)-イ 価値分析から合理的な意志決定に至る過程における視点の転換を図る工夫】

縄文時代の遺物から、当時の人々の生活の様子を価値分析・意思決定させた後、鹿児島県内の遺跡から発掘された遺物や当時の自然環境を表す資料を基に、当時の人々の生活の様子をとらえ直させる。

(5) 本時の展開 (4/7)

主な発問や指示	単	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	情報提示の方法と内容
<問題把握> ○ 縄文時代の人々は、どのような姿をしていたのだろう。	5分	1 縄文時代の人々の想像図から気付いたことを発表する。 2 学習課題を設定する。	1 縄文時代の人々の想像図から、当時の人々の生活に関心をもたせる。 2 縄文時代と世界の古代文明の時期を比較して理解させながら、学習課題を設定する。	資料 「縄文人の姿」
縄文時代の人々は、どのような生活をしていたのだろうか。 <本質究明> ○ 縄文時代の遺物から、縄文時代の人々の生活の様子を読み取ろう。	15分	3 縄文時代の遺物を基に、根拠と論拠を明確にしながら、縄文時代の人々の生活の様子を読み取り、ワークシートにまとめる。	3 既習事項と関連付けて、縄文時代の遺物を基に、縄文時代の人々の生活の様子を読み取らせ、トゥールミン・モデルにまとめさせる。	ワークシート 「縄文時代の人々は、どのような生活をしていたのだろうか」
○ 上野原遺跡の遺物などから、南九州の縄文時代の人々の生活の様子を読み取ろう。	15分	4 上野原遺跡の遺物等を基に南九州における、縄文時代の人々の生活の様子を考察する。	4 上野原遺跡の遺物や当時の自然環境に関する資料から、縄文時代の人々が自然環境に適応しながら生活していたことや、各地と交流をもっていたことなどに気付かせ、トゥールミン・モデルにまとめさせる。 【教科論 6-(1)-イ】	ワークシート 「視点の転換を図るためのワークシート」
○ 縄文時代の人々の生活の様子を、自分の言葉でまとめてみよう。 <洞 察> ○ 縄文時代には、どのような特色があるのだろうか。	10分	5 縄文時代の人々の生活について、自分の言葉で表現する。	5 視点の転換を図ることで、縄文時代の特色のとらえがどのように変化したかに気付かせながら、表現させる。	ワークシート 「縄文時代の人々は、どのような生活をしていたのだろうか」
	5分	6 縄文時代の特色について、自己の主張を発表する。	6 縄文時代の人々の生活の様子から、その特色を多面的・多角的にとらえさせる。	

□ は評価場面、

○ は授業中における評価観点、

⋯ は授業後における評価観点

(6) 主な資料

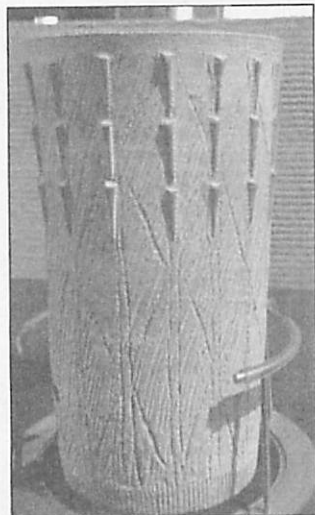
資料1 上野原遺跡（霧島市）出土の壺形土器



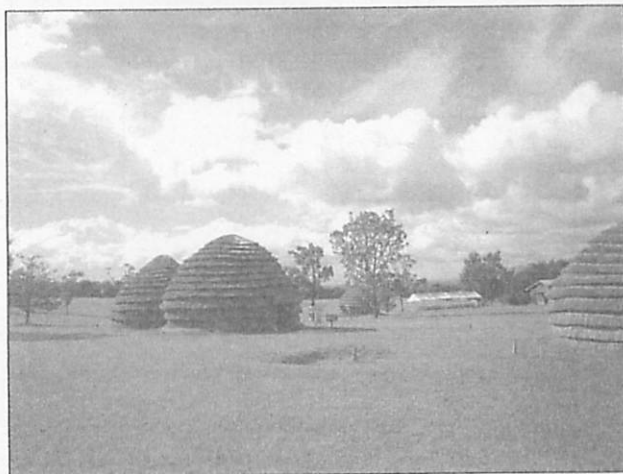
資料2 干迫遺跡（始良市）出土の注口土器



資料3 上野原遺跡（霧島市）出土の円筒土器



資料4 上野原遺跡（霧島市）の復元集落



資料5 旧石器時代～縄文時代の海岸線の変化



資料6 大中原遺跡（南大隅町）の地層の断面

